

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791200082		
法人名	株式会社相馬の里		
事業所名	グループホームオリーブの家(クローバーユニット)		
所在地	福島県南相馬市原町区雫字上江252-1		
自己評価作成日	令和2年2月12日	評価結果市町村受理日	令和2年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 入居者自身が、自身の選択にて生活できる点 業務内容、帳票等の見直しを常にすることで、業務の効率を上げ、入居者それぞれの要望に応えることに繋げている点 引き続き職員の出入りがほとんどなく、チームワークが形成されてきている点
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 利用者ごとの出身地(行事や景勝地等)に出かけ、馴染みの関係継続の支援に努めている。また、日常的には近隣への買い物に出かけ、季節ごとには、花見・菜の花ドライブ・いちご狩り・バラ園見学・紅葉ドライブ等外出の機会が多く、気分転換の機会となっている。さらに、以前の生活と同じように、季節ごとに種や苗を植え、収穫を楽しむ等、畑仕事を行う利用者が多く、利用者の生きがいや楽しみとなっている。 運営推進会議で委員から出された意見、スタッフミーティングや個別面談で出された職員意見を取り入れ、業務見直しを随時行い、風通しの良い職場環境作りがされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時理念をつくっているが、浸透はしているか確認する機会を設けておらず、あまり浸透していないようにも思える。	開設前に全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作成したが、日頃、理念共有の機会が無く、職員間で理念が共有されていない。	職員一人ひとりが事業所理念を理解し、日頃の支援の中で理念が具体化されるよう取り組んで欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方の慰問をうけたり、オレンジカフェ等の事業所外での催しに参加したりして地域との交流を図っている。	中学生の福祉体験実習を受入、読み聞かせや語り部・マジックショー・オカリナコンサート・歌や踊りのボランティアの訪問もある。また、地域の行事(文化祭・神楽祭等)に参加し、馴染みの人と交流出来る機会がある。市の主催するサポーター養成講座で講師を依頼される等、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所へ相談に来る方へ対して、例えば入居申込に至らないような方であっても現在の利用希望者の現況を伺い、認知症の方への支援方法等を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	改善議題について会議委員よりいただいた意見を取り入れている。	運営推進会議は定期的開催され、事業所から状況報告(現状報告、事業所行事、事故・ヒヤリハット報告等)をし、委員から意見や提案が出されている。意見を受け、異食の対応等に認知度の軽い利用者に見守り依頼する等、事業所運営とサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所運営に有益な情報を市町村から情報提供を受けたり、相談などを行っている。また、重大事故を起きた際には報告を行っている。	行政担当者へ利用者の介護保険の更新手続きや事故報告をしたり、不明点等は相談・確認をしながら行っている。また、運営推進会議を通して運営状況やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間については防犯上の観点から内鍵をしているが、認知症の方でも容易に開錠できるオーソドックスなものにしている。その他の時間帯は施錠をしていない。その他の身体拘束については原則0で実践している。	身体拘束等の適正化に向け指針を作成し、運営推進会議の際に委員会を開催し日頃の支援内容を振り返っている。また、研修会で身体拘束の弊害等を理解し、身体拘束をしないケアに努めている。職員の見守りと対応で日中、玄関に鍵をかけた自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の入職時に研修を行い高齢者虐待防止について学ぶ機会を作っている。また、毎日おこなっているミーティングで情報を共有することで虐待を見過ごさないように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用にまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を確認してもらう際には内容について簡単な補足をしている。また、疑問点なども尋ねており、最後にわからない項目が後日出てきても説明する旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者や家族に参加してもらっているが要望までは出ていない。その他は改めて機会を設けることはしていないが、日頃より利用者や家族の要望は取り入れる努力はしている。	日常的な関わりの中で、利用者の思いや意向の把握に努め、家族からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聞き、出された意見や要望を検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの相談があればいつでも個別にて対応している。	スタッフミーティングを開催して職員の意見や要望等を聞き取り、業務の見直しなどにつなげている。また、管理者は日常の会話や個別面談からも職員の意見や要望を聞き運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の査定の際は一人ひとりが正当な評価がされるように、代表者自らが管理者や査定者の言葉に耳を傾けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員に対して法人内外の研修を受ける機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村主催のもの他、任意の同業種の集まり等に参加し、情報交換をしながら、自事業所へのサービスの質の向上に役立っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談時、見学時などに本人に聞き取ったり、家族から状況を聞くなどして。また、入居後も本人と世間話をしたり、様子を観察したりしながら、不安定の把握と信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込受付時や入居前の面談等、家族と会うたびに困っている点や不安等を聞き取っている。何度か会うことで家族の信頼が得られ、話しやすい雰囲気になるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から得た情報のほか、可能であれば担当ケアマネジャーや、サービス事業者等からも情報を聞き、当初必要なサービスは何か把握するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や農作業などできることは利用者にも担ってもらったり、食事は常に職員も一緒に採ったりして暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や理容などで家族でも負担なくできるようなことがあれば家族にも依頼して一緒に過ごしてもらっている。行事などには家族も招待して参加してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた地域の景勝地を訪れるなどの機会を設けている。	馴染みの理美容店や以前住んでいた地域に職員と出かけたり、家族の協力で法事や墓参りへ行き、また年末年始を自宅で過ごしている。家族や知人が訪ねてきたときは、お茶を出し、ゆったりと過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように仲の良さや活動レベルなどを考慮してグルーピングをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、何かあればお声がけし、いただきたい旨をお伝えしている。実際に、定期的に衣類の提供などを頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画見直し時、又は状態変化時にはご本人の希望や意向を聞き取り、確認している。確認が困難な利用者については、日常の変化や本人の言動などを担当者中心に聞き取りをし、意向の把握に努めている。	日々の関わりの中でコミュニケーションを図りながら、その日の気分や表情・行動・仕草から暮らしへの意向や思いの把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、家族からの情報も得て職員間で検討し利用者本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に生活歴等を聞き取り、入居後に本人より今までの生活の様子などを聞き取るようにしている。また、入居前の担当ケアマネジャー等からも、利用経過や生活状況等情報を取得している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に本人、家族、担当ケアマネに聞き取り、入居後の生活から実際の状況を把握している。自宅では行っていなかった行動などは、家族の了承を得て職員と一緒に実際に行い残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時、計画作成担当者は本人、家族の意向を中心に確認し、担当職員は普段の生活の状況などから、課題の把握を行っている。それをもとにして担当者会議で話し合い、計画を作成している。	アセスメントに基づき利用者の現状を把握し、利用者・家族の思い等を踏まえた介護計画を作成している。居室担当者がモニタリングを実施し、ケアマネジャーが介護計画を見直している。利用者・家族の意向や身体状況等に変化があった場合は介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護計画にそっての実施状況、実施の様子などについて記載する他、1月毎に実践結果のまとめを行い、問題があれば計画の見直し等、随時相談するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所単独では行っていないが、法人内の他のサービスを組み合わせることで多様化できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況の把握には務めているが、震災後今まで利用していた地域資源が活用できない、コミュニティも崩壊している状況が多く、実践には結びつかない状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	余程遠方でなければかかりつけ医で受診している。	入居時に確認した利用者と家族の希望する医療機関での受診を支援している。殆どの利用者は、家族送迎でかかりつけ医へ通院し、利用者の心身の状態は、「状況報告書」を介して医師に伝えられ、通院結果は、家族から報告を受け、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適宜協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院のケースワーカー等、相談窓口を把握し、入院時の情報提供を行ったり、入院中なども連絡を取り合い、経過や退院時期の情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や重度化した際などその都度、事業所としてできることや家族へお願いする部分などを説明して方針を話し合っている。	入居時に事業所の「重度化対応に係る指針」を利用者・家族へ説明している。また、重度化した際には、再度、指針を説明し、家族の希望に沿って、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や初期対応にとどまっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全員が備わっているとは言い切れない。地域との明確な協力体制は取れていない。	防災マニュアルの基、年2回(7月、2月)消防署立会いによる避難訓練を計画し実施している。現在、災害の訓練や夜間想定訓練は実施されていない。リビングから中庭へは掃き出し口となっており、避難経路として活用できる。水・医療品・携帯ラジオ・ろうそく・懐中電気等が常備されている。	昼夜を問わず、利用者が避難出来る方法を全職員が身につけられるよう、自然災害や夜間想定訓練回数を増やし、実施して欲しい。また、運営推進会議等を活用し、地域の協力体制を構築されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人の意識づけにより、利用者を尊重し理解しようとかかわりを持って対応している。	日常生活の中で利用者に対して人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉遣いや態度に考慮し支援している。また、個人情報の保護の観点から関係書類は、鍵つきのスチール製のロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、自己決定できるように促し働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望に沿えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後や外出する際の着替えなどは本人に選択してもらい、手の届かない部分や一人でできない部分などは職員を手伝いながら身だしなみを整えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者一人一人のできることを考え残存機能が引き出せるように、調理の一部やテーブルを拭いたりなど、利用者にも役割をもってもらえるように支援している。	調理の手伝いやテーブル拭き、食器拭き、タオルたたみ等、利用者に来る事は手伝ってもらっている。また、食事が楽しいものとなるよう職員もテーブルを囲み会話をしながら、一緒に食べている。メニューは利用者の嗜好等を取入れ、職員が作成している。事業所の畑の収穫物で季節感を感じてもらい、行事に併せ外食等もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の病歴や体調を考慮し、メニューを変えたり、食物の形態を変えたり、量を調節したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きを促したり、義歯の消毒をしたりして口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、できるだけ自立した排泄方法がとれるように努めている。	排泄チェック表を基に、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながらトイレへの声かけ・誘導を行い、トイレで排泄が出来るよう支援している。トイレに利用者個々のパット、リハビリパンツが準備されており、自分で交換出来る人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ体操や散歩などに取り組んでもらったり、整腸作用の高い食物を食事に取り入れたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴対応している。入浴する時間帯は完全に自由なわけではないが、できるだけ要望に応えられるように努めている。	入浴の日時、回数等は、出来る限り利用者の生活習慣や希望を取り入れ、夜の入浴も可能な体制で支援している。利用者とは話をしながら、入浴が楽しめるよう支援している。また、ゆず湯、菖蒲湯等を探り入れ、季節を感じてもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調などその時々状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認についてミーティングを行い情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃や、畑仕事、編み物など利用者それぞれに役割ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣で利用者にゆかりのある催し物などがあつた際にはドライブに出かけたりなどを行っている。	利用者の希望を聞き、職員と一緒に日用品の買物に出掛けたり、気候のよい時には、畑作業を行い、収穫の楽しさを感じてもらったり気分転換を図っている。また、事業所計画に沿って花見、イチゴ狩り、紅葉見学や文化祭等地域の催しものにも出掛けている。家族の協力を得て、通院や外食、墓参り等にも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の管理は本人となっているので、本人が希望した際には家族に報告した上で買物の支援などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に年賀状を送るのを支援したり、電話を取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花や飾りなどをして利用者が季節を感じれるように努めている。	廊下、居間、食堂等の共用空間には、季節の植物や行事等の写真を飾っており、ベランダから見られる畑や景色には、四季折々の変化が見られ、利用者に安らぎと落ち着きを与えている。気になる音等は感じられず、温・湿度、換気は職員が気を配り、過ごし易い環境を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣合うような席順にしたりなど工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室には利用者馴染みの物などを持ってきていただき、安心して暮らせるように努めている。プライバシーが確保できるように利用者自ら居室にの鍵を閉めることができるようになっている。	居室には、家族と相談のうえ、利用者が使い慣れたテレビ、衣装ケース、本箱等が持ち込まれ、また、ひ孫等の家族の写真やつるし雑が飾られ、自分らしい落ち着いた居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にはトイレや汚物入れなど利用者がわかりやすいように表記することで自立した生活が営めるように努めている。		